

みんなが使いたくなる様な図書館の秘密

C1240374 遠藤未徠

これまで以上に利用したくなるような図書館を利用する

1、共感

図書館を利用している人を見ると、一番多く見受けられたのは課題に取り組んでいる人が一番多かったです。次に本を読んでいる人、調べ物をしている人が多かったです。自分も利用してみて、室内温度が高くて集中しづらいと感じます。特に、一階は利用者が多かったり、人の出入りが多くて取り組みづらかったり、図書館の階数が上がるたびに部屋の温度が高くなっていると感じます。また、図書館として本を利用するという目線で考えると、本の数が沢山あって頼もしいと感じます。ですが、利用者が大学の在学生しか見受けられないと感じています。

2、課題定義

室内温度が高いという点と、利用者が在学生しかいないという点から、思った以上に利用しづらいという問題があると考えています。そこから、みんなが気軽に利用したくなるような環境が整った図書館を作ることが必要と考えます。そこで、まず、みんなが利用したくなるような図書館の工夫として何があるかと考えています。

3、プロトタイプの提案

私は三つあると考えます。

一つ目は、さまざまな目的に特化した座席を用意すればいいと思っています。館内の大学では、一人用の席は手前で、二人用の席は奥側など大まかには決まっているけどあまりパツとしないので、静かに読書をしたい人、グループで勉強をしたい人、パソコンを利用して作業したい人など利用目的に分けてゾーンをすることで、図書館に来た人が何をしに来たか明確になって、利用が増えるだけでなく、作業の効率化を図れると感じています。

二つ目は、快適な環境作りが大切だと感じます。自分が特に感じた室内温度だけでなく、照明に力を入れるといいと思っています。室内温度では、最近何かとお世話になっているAIを活用すべきだと思います。自動でその人に合った適切な体温を測ってくれて、室内温度に設定してくれるようなシステムを使うと過ごしやすいと感じています。また、照明のライトの色は白昼色がいいと思います。この色は、オフィス照明のような味気ない雰囲気になってしまう反面で、脳を覚醒し、集中力を高めるといふ効果があると言われています。

三つ目は、カフェやちょっとした売店を設けることです。カフェをの備けることで、利用者が一息つけるような休憩ができ、気話になれるような場所を作れると感

じています。それは、利用者がストレスを解放できるような取り組みになっています。また、在学生しか利用者がいなかったという点で、地域住民の人たちが図書館に入りやすくなるような工夫のひとつになると考えています。次に、売店を設けるという点では、作業をしていて小腹が空いた時にすぐ買いに行くことができたり、飲み物が欲しくてもすぐ入手することができる特徴があります。これは、作業中の方を少しでも、座席から離れる時間を減らして、作業の時間を増やそうという意図があります。また、ちょっとした物が欲しくて入った時に少しでも図書館という存在に気づいてもらう工夫の一つでもあります。

4、期待される効果

効果として、作業している人に合わせた作業効率効果アップが期待されます。また、図書館としての利用だけでなくカフェや売店を設けて常識にとらわれない魅力的な珍しい図書館としても利用することができます。また、地域住民の人も来やすい取り組みが施されていて利用者増加の期待にもつながると思います。